

スポーツボランティア
プログラム
東京都障害者スポーツ大会
「車椅子バスケットボール競技」
2018/1/28



朝の打ち合わせの様子

1月28日（日）、武蔵野総合体育館にて、東京都障害者スポーツ大会の「車椅子バスケットボール競技」が開催され、本学のスポーツボランティアプログラムの学生8人が運営ボランティアとして参加しました。障がい者スポーツの花形と言われる車椅子バスケットボール（以下、車椅子バスケット）。激しくぶつかり合う車椅子の音、



ものすごいスピードで駆け抜けていく選手たちの姿を間近で見ることができ、大興奮で運営サポートを行いました。

車椅子バスケットのルールは、一般のバスケットボールとほぼ同じで、1チーム5人の選手が一般の競技と同じ高さ（3.05m）のゴールにボールを投げ入れて、得点を競います。一般のバスケットボールと大きく異なる点は、重度の障がいをもつ選手が競技への参加を妨げられないよう選手一人ひとりが障がいの程度により、1.0点から0.5点きざみで4.5点まで、持ち点でクラス分けされており、常にコートに出ている5人の選手の持ち点の合計が14.0点以内でなくてはならないことです。転倒も頻繁に起こり、転倒した際は自力で起き上がらないといけないため、素早くうまく起き上がる姿に鍛え上げられた筋力のすごさを感じました。車椅子がぶつかり合う金属音、タイヤと床がこすれる音、焦げたような匂い、片手でキャッチし片手でシュート、片輪を浮かす華麗なプレイなど迫力のある試合が繰り広げられ、通常のバスケットボールとは違った面白さもありました。

活動内容

本学の学生は、来場した選手の誘導、体育館に入る際のタイヤ拭き、開会式・閉会式でのプラカード持ちや介添え、試合中にはモッパー（床のモップがけ）などを行いました。

参加した学生の声

- 事前学習で興味をもって、とても楽しみにしていた。プラカードのときに選手とお話したり、モッパーでは「ありがとう」と言ってもらい、素直に嬉しかった。運営側しか見られない角度からゲームや物事を見ることができ、新しい体験だった。
- モッパーとして、選手の方たちの妨げにならないように速やかに、かつ丁寧にするようにしたが、意外と大変だった。コートの近くで見られたからこそ、より迫力や選手の熱さを感じられた。
- 車椅子バスケットのルールをきちんと把握しておけばよかった。そうすれば、今、どういう駆け引きがされているか等の本当の凄さをもっと感じることができたと思う。

